

石狩が大好き。映画が大好き。 熱い心が支える「手づくり映像祭」

「式典や懇親会だけでは物足りない。何か記念になることを企画できないだろうか」

商工会議所青年部の北海道ブロック大会を控えて、開催地・石狩市の青年部が思案していました。そんなとき出会ったのが「石狩シネマサポーターズ」の面々。

お互いに取り組んでいる内容は違うものの、まちを愛し、石狩の魅力を一生懸命にPRしようと頑張るところは両者共通、アイデアはすぐにまとまりました。

「初めての試みですが、一緒に力を合わせてやりましょう！」

こうして異なる団体が手を組み、「いしかりPUREPLACE映像祭」の開催に向けた共同作業が始まりました。

実行委員会代表を務めた商工会議所青年部の小山聖さんは「これまでも、さけまつりなど地元イベントに参加してみんなで盛り上げてきましたが、映像祭の実行メンバーは職業も世代も違う多彩な顔ぶればかり。新しい横のつながりを築く良いきっかけになりました」と振り返ります。

一方、石狩シネマサポーターズ代表の

榎田「恵さんかたけずみは「世界にはいろいろな映画祭がありますが、石狩の場合は、映画を愛し、まちを愛する『普通の人たち』が集まって立ち上げました。実はそこが最大の特徴で、強みなんです」。

実際に、この映像祭は、市民の有志たちが手弁当で集まりながら試行錯誤を重ね、実現にこぎつけた努力のたまもの。榎田さんは、「そうした純粋な情熱や素材だけれど温かい雰囲気こそが、今後、石狩市がたくさんのロケを誘致していく上で、最大の魅力となるはず」と説明します。

ロケの誘致は、地域ブランドを多くのの人たちに知ってもらう絶好のチャンスです。それを生かすには、誘致する地域側が、映像製作に関心と理解を持つ必要があります。創り手と支え手が一体となり、ともに創る立場としての支援体制ができて初めて、ロケーション撮影が現実のものとなるからです。

小山代表は「そのためには、一人でも多くの市民のみなさんや地元企業の方々に、映像祭を通してロケ誘致の有効性を知ってもらい、石狩が新しい



「映像を見て、石狩の手つかずの自然の魅力にあらためて感動しました」と話す小山さん。



「映像祭にしたのは、映画だけでなく、あらゆるジャンルの映像を公開していきたいという思いがあったから」と榎田さん。

ブランドになれるよう、まちの良さをもちとアピールしたい」と夢を膨らませます。

榎田さんも、「映像祭は、とにかく初めてで大変でしたが、精一杯やりました。反省点もありますが、何よりも続けていくことが大切。参加者の方々に、翌年もまた来たい、と思ってもらえる映像祭づくりに頑張ります」と、次の開催に向けて意気に燃えています。

映像の創造に、貢献できる喜びと感動。それが活動のエネルギー源 石狩シネマサポーターズ

本格的な活動開始は、平成15年の映画「天国の本屋～恋火」から。石狩のフィルムコミッションをサポートすることを目的に、年齢も職業もさまざま異なる人々がかかわっています。また、石狩市以外の札幌や、遠くは釧路、帯広からの参加もあります。

ロケの支援には、ロケ現場での炊き出しからエキストラの手配まで、やることはたくさんあります！ もちろん、エキストラとして出演す

ることも少なくありません。

まずは自分にできることから取り組み、あとは映像の制作現場を間近に見て、作品と一緒に作る楽しみを味わってみましょう。メンバー随時募集中。

連絡先事務局 ☎72・3167(担当 奥山)

🌐 <http://plaza.rakuten.co.jp/ics2005>

✉ ics2005jp@yahoo.co.jp



石狩フィルムオフィス公式サイト Ishikari Looks Like

石狩の緑や水辺といった自然風景のほか、商店街や工場群など約36,000点を写真に収録し、データベース化したものを、こちらのWEBサイトでも一部公開しています。FCについての詳しい情報も随時、ここから発信予定です!

<http://www.kitaloca.net/ILL/>



北海道ロケーションサービス

道内で10番目となる「石狩フィルムオフィス」の開設を心からお祝い申し上げます。

道では、北海道を舞台とする映画やテレビドラマなどのロケーションを支援・誘致するため、平成13年度からFC事業に取り組んでいます。

一方、国内では80を超えるFCが設置され、FC事業はますます活発になっていることから、ロケの支援や誘致のあり方などを、さらに研究・検討していく必要があります。

北海道全体のロケ支援・誘致の窓口を担う「北海道ロケーションサービス」では、今後、道内のFCや市町村などと連携して、FC事業をより一層発展させるためのネットワークづくりを進めていきたいと考えています。



北海道ロケーションサービス 主査
時田英明さん

<http://www.pref.hokkaido.jp/skikaku/sk-tstcs/fc/index.htm>

皆さんの応援が FCを育てます

厚田・浜益との合併で、海岸線の長さが約80km以上にもなった石狩市。

ドイツから映像祭に訪れたニーナ・フィッシャー氏とマロアン・エル・サニ氏は、「厚田から浜益方面の古い家並みと深い海岸線が印象的でした」と話し、韓国のチョン・シエウン監督も、「石狩は、空がとても広く感じる」と感想を残しています。

FCは、過大なインフラ投資は必要なく、手付かずの大自然や廃屋であつても、映像素材として掘り起こすことで活用ができる事業です。インターネットの世界では、映像資源には多様な付加価値があるといわれ

ています。

石狩のFC事業の今後の展開を担当者に聞いてみました。

「厚田・浜益を含めたさらなる写真の収集作業や市民エキストラ登録制度などの整備が必要です。今回、窓口としてオフィスが設けられましたが、『(仮)石狩FC連絡協議会』の設立を考えています。この事業を石狩全体での取り組みに拡大し、活動と支援の輪を大きく発展させ、世界に向けて発信していくため、地元企業や関係団体、そして地域住民の参画と応援をお願いいたします」



映画のロケは、景勝地や有名観光地だけにスポットライトを当てるのではなく、むしろ日常の中で見落としがちな、何気ない風景やまちなみにも再生の光を与えてくれます。